

1 学校教育目標

人間尊重の精神を基本とし、心身ともに健康で知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、次の三項目を教育目標とする。

- 思いやりのある子 …自分に自信をもち、友だちを大切にできる子
- よく考える子 …めあてをもち、意欲的に学習する子
- たくましい子 …あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子供が学びたくなる、明るく楽しい学校 ○保護者や地域の方が通わせたい学校 ○教職員が協働し、充実感と誇りのもてる学校
○児童・生徒像	○自分に自信をもち、友だちを大切にできる子 ○めあてをもち、意欲的に学習する子 ○あきらめない強い心とやり遂げる体力のある子
○教師像	○子供のよさを認め・伸ばし、情熱をもって育むという信念をもつ教職員 ○協働性を重んじ組織の一員として自己の職責を果たすことができる教職員 ○授業力向上のために、努力を惜しまない教員 ○課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことができる教職員 ○考えや発想を、適時実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○学校の現状について

令和4年4月現在、全校児童は564名が在籍している。令和4年度、新1年は98名入学した。今年度も18学級でスタートができた。特別支援教室には36名が入室した。教職経験10年未満の教職員が52%（内5年目まで32%）を占めている。常に協働性と組織的対応、学校として、共通の指導観をもって職務にあたらせている。教員同士が互いに声を掛け合い、専門性を生かして研鑽し合い指導力を高め合っている。しかし、本校で中心的に校務を行っていた教員の必異動が数年活発になること、引き続き若手教員が多数在籍していることを考えると、これで積み上げてきた成果をさらに発展させていくことが課題となっている。現在は、持続可能な学校運営ができるよう、次代を担う人材の育成を行っている。新年度は、育休復帰をする者も複数いるため、校務の平準化と一般化、教育の質の担保等、人員が入れ変わっていく中でも、学校教育全般が円滑に進められるよう全教員で取り組んでいる。保護者や開かれた学校づくり協議会など地域の方々から学校に寄せられる期待は大きいため、コロナ禍であっても、子供たちに最良の教育を提供できるよう、本校の歴史と伝統を受け継ぎ、学校・保護者・地域の連携を強化しながら、引き続き学校改革を推しすすめていく。

重点的な取組事項－1 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価95.8%で設定目標を達成した。コロナ禍が続く事を想定し、新たな方法や取組を模索しながら、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。挨拶については、教員・PTAによる挨拶活動に加え、児童による挨拶活動が中止となったが、教職員による挨拶活動を通年で取り組んだことにより、適切な声で挨拶する子供が増えてきた。立ち止ま

って挨拶をする子や廊下ですれ違う時に会釈をする子も増えてきている。規律ある行動ができるよう、生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に指導していく。また、自己肯定感を育ませるために、環境かるた・将棋大会・百人一首等の区のイベントに向けての練習や大会・イベントへの参加等、自分の得意なこと・好きなことに取り組める場を設定する。

重点的な取組事項－２ 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

区学力調査通過率８０％以上を目指してきた。結果７月の通過率は８９．１％で目標を達成することができた。また、国語・算数の基礎的基本的な学力の定着７０％以上の児童８０％以上を目指してきた。結果、国語８９％、算数８９．１％、全体として８９．１％で達成できた。７０％に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、８５％以上達成に向けての努力を続ける。また、学力向上につながる教員の授業力・指導力向上に関しては、国語科を通じた校内研究を学校全体で実施する。また、小中連携において、講師を招聘した講演会を１回実施した。教科別分科会でも、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努める。さらに小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めていけるように努める。

重点的な取組事項－３ 体力向上に向けた取組の推進

健康な体づくりも、制約の多い中、体育の授業等の中で、できることは何かと考え、体力向上と健康な体づくりに努めてきた。体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や体づくりの運動、持久走の取組など、できることから始め、感染防止対策をしながら活動を少しずつ広げてきた。保健指導・食育指導についても、ショートの保健指導、給食だよりによる食育指導などできる指導を実践してきた。今年度は、常にＰＤＣＡ（計画→実践→評価→改善）のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。今年度も常にＰＤＣＡサイクルを大切にして取組の充実に努める。また、感染対策を講じながら、課外スポーツ活動等、区の大会への参加をすすめていく。

重点的な取組事項－４ 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

カリキュラムマネジメントを充実させ、教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともにSDGsを意識した持続可能な社会の担い手としての意欲と態度を育成・開発する。例えば、各学年において、教科等との関連を明らかにして、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を展開する。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習を行う。加えて、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を実施することで共生社会の意義を理解させる。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営組織の構築を進める。

４ 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	人権と生命を尊重する教育				◎	◎
2	基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)	◎	◎	◎	◎	◎
3	体力向上に向けた取組の推進				◎	◎
4	地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現				◎	◎

5 令和4年度の重点目標

重点的な取組事項-1		人権と生命を尊重する教育				
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
自己肯定感・思いやりの心を育てる		「楽しく学校生活を送っている」 自己評価90%以上	児童アンケート：97.5%達成	「楽しく学校生活を送っている」について97.5%で設定目標を達成できた。感染防止に努めつつ様々な行事を再開するにあたって工夫してきた。今後も友だちや先生とのかわり合いを通して、すべての児童が楽しい学校生活であるよう努める。	◎	
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度
読書活動の充実	読書ファイル 児童アンケート「楽しんで読書できたか」自己評価 80%以上	日常的に読書活動に取り組み、本に親しむ態度を養う。 ・読書タイムの時間(15分)自席で読書をする。(週3回)(全学級週1回以上貸し出しの時間を確保する。) ・旬間中は、目標冊数(低10冊・中400ページ・高500ページ)に向けて読書をする。(読書旬間6月2月) ⇒読んだ本の感想などを読書カードに記入する。 ・教員や図書委員会による読み聞かせを年2回行う。		・読書タイム100%実施 ・読書旬間年2回実施(達成率75%) ・読み聞かせ達成率40% ・アンケート自己評価 →82.5%	読書タイムは全学級で確保できていた。読書旬間は2回の実施をした。達成率は8割に至らなかったが、各学年読書活動を楽しめたと答えた児童は8割を超えていた。教員の読み聞かせの時間が中々確保できなかったため、読書旬間の際に1度は読み聞かせをするなど、内容を改善し読書の質を高める工夫をし、読書に親しむ機会を増やしていく。	○
なかよし標語【新規】	いじめアンケート項目追加 「友達に優しくできた」 (6月、11月に実施) 左記項目にて肯定的回答率 90%以上	テーマを決めて児童に言葉を書かせ、期間中掲示する。年2回 5月「言われてうれしかった言葉」 10月「友達と仲良くするために」 ハート型の用紙を連ねて廊下に掲示する。1年生は用紙を切ることが難しいため、6年生が切ってあげる。1年生はそのお礼をして交流してもよいこととする。		・児童アンケート 「友達に優しくできた」 98%達成	「言われてうれしかった言葉」「友達と仲良くするために」を掲示したことで全校に共有することができた。「友達に優しくできた」のアンケートに対しても98%の児童が肯定的な回答をしていたため、次年度以降も継続する。	◎

<p>あいさつ運動</p>	<p>ハッピー貯金(年3回)「家族や大人にあいさつをした」肯定的回答率90%以上</p>	<p>看護当番(日直)が毎朝昇降口前に立ち、登校を見守りながら児童に挨拶をする。(通年)</p>	<p>・ハッピー貯金表(2回目まで)「家族や大人にあいさつをした」肯定的回答率 88.7%→1.3%未達成</p>	<p>・担当が毎日昇降口に立ち、挨拶を見守った。後期から検温がなくなったが、児童は順番を守り整列して教室に向かっていた。挨拶ができない子には、担当自ら挨拶をした。引き続き率先して教員が模範を示すことが有効であると感じた。 ・第3回目では90%以上に満たすよう、週目標の設定を工夫したり、あいさつキャンペーンをおこなったりし、自らあいさつする児童を増やしていきたい。</p>	<p>○</p>
<p>道徳教育の充実【改善】</p>	<p>「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 相手の気持ちを思いやることができましたか 2月 肯定的評価 80%以上</p>	<p>毎週1時間の道徳授業を要に全教育活動で実施 【指導體制】全教職員 【取り組みのねらい・目的】 ・思いやりの心を育む。 ・道徳地区公開講座の実施 ・人権・生命尊重に関する授業を年3回実施 ・心に関わる掲示コーナーを各クラスに設け、道徳授業の振り返りに活用する。</p>	<p>児童アンケート「相手の気持ちを思いやることができた」：96.5%達成 心に関わる掲示の実施：77.8%</p>	<p>・週に1時間の道徳の時間を行いながら、一人一人の心を育ててきた。心に関わる掲示コーナーでは、各クラスの実態に合わせた掲示が工夫されていた。まだ掲示されていないクラスについては、学校生活や道徳授業など効果的なタイミングで掲示をして子供たちが視覚的にも学んだことや話し合ってきたことを振り返ることができるようにしていく。児童の自己評価では9割を超える児童が思いやることができていると、感じている。更に思いやりの心が育まれていくよう、帰りの会などで思いやりのある言葉や行動を紹介するなど、できているところに気付かせ高めていきたい。</p>	<p>◎</p>
<p>児童集会の充実</p>	<p>「ふりかえりカード」(児童アンケート)実施 2月 肯定的評価 80%以上</p>	<p>毎週木朝 15分 【指導體制】全教職員 【取り組みのねらい・目的】 ・協力・助け合いの心を育む ・縦割り班遊びの実施 ・児童集会・音楽集会の実施</p>	<p>児童アンケート「友達と仲よく助け合うことができた」：97.9%達成</p>	<p>・感染対策のため、MEETでの集会も多かったが、アンケート結果は肯定的な意見が9割を超えている。集会では話を聞く時、楽しむ時とめりはりをつけ協力して楽しむことができていた。加平小のよさとして続けていきたい。</p>	<p>◎</p>

重点的な取組事項-2 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的基本的な学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査目標 通過率 80%以上 ・9月 到達目標 全体 通過率 85%以上 ・2月 到達目標 通過率 75%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・区学力調査通過率 87.3% 当初目標を7%上回った。 ・9月全体通過率 90.2% 当初目標を5%上回った。(2月再調査実施予定) 	4月通過率は国語が87%(前年度比2ポイント減)、算数が87.7%(前年度比1.5ポイント増)、全体87.3%(前年度比1.8ポイント減)で当初の設定目標85%以上を達成した。前年度より、ポイントが下がっていることから、今後児童の実態に応じた指導改善と個に応じた指導を充実し、学力向上を推進する。	◎

B 目標実現に向けた取組み

新 継	アクション プラン	対象・ 実施教科 科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程 度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
継 続 ・ 改 善	朝学習の充実 朝授業(国語)の 充実	国語 算数 国語	毎週 火・水・金 朝15分	【指導体制】担任+専科による 【ねらい・使用教材】 ・学習内容の復習 ・国語 漢字小テスト ・算数 前期 E ライブラリー 後 期 AIドリル	定着度 確認テスト (9月実施)	2月通過率 各75%以上	2月実施予定	週二回の朝学習では漢字の小テスト、算数のAIドリルの活用を徹底して行った。漢字の学習では、とめ・はね・はらい、送り仮名の確認をした上でテストに臨ませた。AIドリルで間違えた問題は再度取り組み、復習を行った。2月の通過率の状況を見て、再度課題設定をしたい。	◎
継 続	放課後補充教室算数 (全教職員)	正 答 率 70 未 満 の 児 童	毎週 木 放課後 30分	【指導体制】担任+専科 【ねらい・使用教材】 ・つまずきに応じた指導 ・次へのステップ	定着度 確認テスト (9月実施)	9月通過率 85%以上	9月通過率 90.2%	9月の全校通過率は90.2%で、目標の85%以上を達成することができた。算数が苦手な児童に対して、担任以外からの個別支援も行うことができた。個々の課題に応じつつ、同一プリント学習に取り組むことも多かったため、今後改善していきたい。	◎

継続	「家庭学習の手引き」の活用	全児童	年3回	<p>【ねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」の配布(6月)、啓発(9月・1月) ・宿題の提出率把握と指導 	宿題提出状況調査	宿題提出率90%以上	宿題提出率93.1%	提出率は93.1%で、当初の設定目標90%以上を達成した。統一された手引きがあることで、全校・全家庭で共通理解を図ることができた。今後も継続していく。	◎
継続・改善	授業力向上	教員	毎日	<p>【取り組みのねらい・目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職、教科指導専門員による授業指導3回以上 ・校内研授業(国語)年3回 ・タブレットの活用推進(一日一回以上活用) 	授業研究実施	<p>授業アンケート</p> <p>肯定的評価80%以上</p> <p>授業研究年3回以上</p>	<p>肯定的評価 85%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究(国語) 低中高学年各1回 ・OJT研修(年8回) ・教員がタブレットを使った授業は毎日実施。児童がタブレットを活用した授業も実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導専門員による授業指導を通して、児童に学習の流れを定着させることができた。「ねらいを明確にした授業」「やる気を引き出す授業の工夫」を視点に、児童の思考の流れを大切に授業づくりを進めていく。 ・校内研究では、各分科会で年3回授業を行った。本時の児童への学習課題を全教員で取り組み、協議会や指導講評を生かした事前・事後授業を実施した。 ・OJT研修では、本校教員の課題やニーズを基に、授業力向上のための様々な研修を年8回行った。 ・教員がタブレットを活用した授業は目標を達成している。児童が一人一台タブレットを活用した授業は週3回以上できていない。活用事例を提案し、教員の指導力の底上げを図る。 	◎

重点的な取組事項-3		体力向上に向けた取組の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な体づくり		○体力・運動能力調査結果 投力・握力・柔軟性・瞬発力の4種目を都の平均に近づける	都の平均と比べて、 ・投力…女子が4つの学年で都の平均を上回った。 ・握力…都の平均を上回るのが男子1学年のみ。 ・柔軟性…男子2学年、女子1学年都の平均を上回った。 ・瞬発力…男子5学年、女子4学年都の平均を上回った。	・瞬発力は都の平均を上回ったが、投力・握力・柔軟性は平均を下回り、課題となった。 ・投力・握力・柔軟性を伸ばすための実技研を行い、授業や日々の実践の中で力を高めていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
健康な体づくり	外遊びを進んでする運動することが好き 自己評価90%以上	外遊びの奨励 エンジョイタイムの実施(年10回) 長縄跳び(年5回) らんらんタイムの取組(年5回) 体育朝会(年6回)	エンジョイタイム…実施せず なわとび…1回実施 持久走…週に1回、期間を設けて実施 体育朝会…4回実施	・コロナ禍における校庭の使用制限により、エンジョイタイム・長縄跳びの取り組みができなかった。 ・なわとびと持久走は取り組み期間を設定して全学年で取り組んだ。 ・体育朝会は年間4回実施した。朝会の時間だけでなくICT機器を活用して、全校に外遊びや運動を呼び掛ける取り組みも行った。	○
体力・運動能力調査	体力・運動能力調査結果で、握力・投力・柔軟性・瞬発力を区の平均に近づける	調査結果を基にして強化領域の決定 体育指導技術向上のための実技研修(年3回)	都の平均と比較して 握力…0.5~1ポイントマイナス 投力…0.5~1.9ポイントマイナス	・調査結果を基に、本校は、投力・持久力・握力を強化領域として今後具体的な指導や活動内容を決定していく。また必要に応じて教員の実技研修を行い、指導力向上に努めていく。	△
食育	食育指導の実施	ランチルーム給食時の食育指導実施 ・栄養士による(各学年3回以上) 親子料理教室(年1回)	・コロナ禍における感染防止対策として、実施できていない。	・ランチルームにおいて食に関する指導はできなかったが、ランチルームに掲示物を貼ったり、昼の放送で食に関する情報を伝達したりと児童の食への意識を高めた。	○

保健指導	保健指導の実施	担任と養護教諭・栄養士の連携授業 ・保健指導(3年以上各1回) ・食育指導(2・3年各1回) 発育測定時の保健指導実施(全学年 年3回) 歯みがき指導(各学年1回) ・養護教諭による(2年以上) ・歯科衛生士による(1年)	・保健指導 4・5年女子 月経に関する指導 6年 SOS の出し方教育 ・発育測定時の保健指導 全学年 9月・1月発育測定時 ・歯みがき指導 1年 歯科衛生士と連携 感染防止のため、2年以上対象の歯科指導は実施しなかった。	・保健学習の中で各担任より指導した。また、男女分けて、養護教諭も含めて、より詳しく指導した。 ・各クラスにて、養護教諭より SOS の出し方について指導を行った。 ・毎日の歯磨きは感染防止のため行っていないが、養護教諭から児童への指導を実施した。	○
------	---------	---	--	---	---

重点的な取組事項-4		地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
魅力ある教育活動の展開		各学年が地域にある教育資源(人・施設等)を活用した授業を実施する。	スポーツテストの補助員 3名来校 ボッチャ体験のスポーツ推進委員 4名来校	・スポーツ指導員が来校し、技能ポイントやルールを分かりやすく指導して下さった。また、実施の補助をして下さった。 ・今回指導していただいた内容を校内に広め、各学年でも実施していく。 ・学校2020レガシーの一環として引き続き、障がい者理解を深めるよう、引き続き指導する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
伝統的な言語文化に関する指導	俳句指導の実施、「おーいお茶新俳句大賞」への参加、席書会の実施(参加率9割以上) 「加平小かるた」(低)「あだち環境かるた」(中)「百人一首」(高)の実施(年1回実施)	俳句指導、「おーいお茶新俳句大賞」への参加のための指導 書写(硬筆・毛筆)指導 「加平小かるた」(低)「あだち環境かるた」(中)「百人一首」(高)の活用	・「おーいお茶新俳句大賞」は冬季休業中の課題として全校募集し、応募する。 ・冬季休業明けに席書会の全校実施 ・「百人一首」「あだち環境かるた」は大会に参加 ・「加平小かるた」は各クラスにて実施	・おーいお茶新俳句大賞へ9割以上の参加を達成することができた。授業で学習したことを生かし、家庭とも連携して俳句の指導をすることができた。 ・かるたや百人一首は年間を通して取り組みや実施ができるようにする。	○

ろくまる	2月 児童アンケート 肯定的評価 80%以上 地域や学校のためにできることを 考えて行動した。	2年生が生活科見学で訪れる。地域の見 守り、働いている人の話などを聞き、地域 の方への感謝の気持ちや地域のために自 分たちができることを考える。学習後ま とめのポスターや手紙などを学校に掲示し、 他学年で地域や学校のためにできること を考える。	2月実施予定 1月に2年生生活科見学でろ くまる、六町ミュージアムを訪 問。	見たことや聞いたことを、ポスターや手 紙にまとめる。 校内にポスターを掲示。 手紙をろくまる、六町ミュージアムを届 ける。	○
タブレット端末を活用した ICT 教育の 推進	・各学年の達成目標 ①30級②29級③28級 ④27級⑤26級⑥25級 ・年に3回、教員を対象にした OJ T 研修を実施する。	1～3月 ○「キーボー島」を活用したタイピング検 定の実施 ○○JT 研修の実施	・「キーボー島」の代わりに AI ドリルを活用し、1 か月 で250問の取り組みを達 成した。 ・ICT 委員会を組織の中に 位置づけて、各学年で研修 をすすめた。	・各学年に ICT 担当を置くことで、円滑 に情報共有することができた。 ・宿題を中心に AIドリルを活用し、個別 最適な学習ができるようにすすめてき た。来年度は、取り組み数を増やしてさ らに活用していく。	○
体力・向上	12月までに1回 ボッチャ体験教室の実施 アンケート(授業後) 肯定的評価80%以上	地域のスポーツ指導員を招聘し、ボッチャ 体験を行う。ボッチャを体験することで、障 害者スポーツに興味をもち、スポーツ志向 や障害者理解を図る。	・ボッチャ体験教室 1 回実施 ・実施後のアンケートで、 「楽しく活動できた」と回答 した児童が100%であっ た。	・ボッチャ体験のスポーツ推進委員4名 が来校子供たちに指導・ゲームを体験 させた。障害者理解、スポーツ志向を深 める活動となった。学校2020レガシー の一環として、障害者理解を深められ るよう、引き続き指導していく。競技のや り方を校内で共有し、各学年にも広め ていく。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 人権と生命を尊重する教育

「学校は楽しい」の項目は自己評価97.5%で設定目標を達成した。コロナ禍が続いているが、新たな方法や取組を模索しながら、人権教育や道徳教育の充実、ふれあい月間、たてわり班活動、音楽集会・鑑賞教室等による心の教育の充実を図る。挨拶活動については、教員・PTAによる挨拶活動を学校公開期間に実施することができた。児童による挨拶活動は感染対策上中止とした。教職員による挨拶活動を通年で取り組んだことにより、適切な声で挨拶する子供が増えてきた。立ち止まって挨拶をする子や廊下ですれ違う時に会釈をする子も増えてきている。引き続き規律ある行動ができるよう、生活指導の基本方針に掲げている「み・そ・あ・じ」の取組を中心に学校全体で指導していく。また、自己肯定感を育ませるために、環境かるた・将棋大会・百人一首等の区のイベントに向けての練習や大会・イベントへの参加等、自分の得意なこと・好きなことに取り組める場を設定する。

重点的な取組事項－2 基礎的・基本的な学力の定着(学力向上アクションプラン)

区学力調査通過率80%以上を目指してきた。結果7月の通過率は89.1%で目標を達成することができた。また、国語・算数の基礎的基本的な学力の定着70%以上の児童80%以上を目指してきた。結果、国語89%、算数89.1%、全体として89.1%で達成できた。70%に達成していない児童を中心に児童一人一人の基礎的基本的な学力定着状況を把握して、85%以上達成に向けて、つまずきのポイントを絞って繰り返し指導していく。また、学力向上につながる教員の授業力・指導力向上に関しては、国語科を通じた校内研究を学校全体で実施した。加えて、小中連携において、講師を招聘した講演会を1回実施した。教科別分科会でも、講師を招聘し、研究授業・協議会を通して、小中の学びの連続性と児童・生徒のやる気を引き出す工夫について互いに学び合い、授業力・指導力の向上に努めた。次年度は、小中連携の取組を通して、さらに小中教員が協働して指導法等の統一を目指し、授業研究・協議を通して、授業力・指導力を互いに高めていけるように努める。

重点的な取組事項－3 体力向上に向けた取組の推進

健康な体づくりも、制約の多い中、体育の授業等の中で、できることは何かと考え、体力向上と健康な体づくりに努めてきた。体育部による実技研修や授業に関する資料の提供により、短縄跳びの取組や体づくりの運動、持久走の取組など、できることから始め、感染防止対策をしながら活動を少しずつ広げてきた。保健指導・食育指導についても、ショートの保健指導、給食だよりによる食育指導などできる指導を実践してきた。今年度は、常にPDCA（計画→実践→評価→改善）のサイクルで改善し続けてきたことで成果を上げている。次年度も常にPDCAサイクルを大切に取組の充実に努める。加えて、体力調査の結果から課題を焦点化し、体育の授業の改善、日常の運動する機会の設定等を実施していく。また、感染対策を講じながら、課外スポーツ活動等、区の大会への参加をすすめていく。

重点的な取組事項－4 地域の特色にあった魅力ある教育活動の展開及び持続可能な学校運営の実現

カリキュラムマネジメントを充実させ、教科等を横断した学習活動を通して現代社会の課題を主体的に学び解決していこうとする意欲を育むとともにSDGsを意識した持続可能な社会の担い手としての意欲と態度を育成・開発する。例えば、各学年において、教科等との関連を明らかにして、地域にある「六町駅前安全安心ステーション(ろくまる)」を活用した教育活動を展開する。また、全学年、毎日、タブレット端末を持ち帰りタブレット端末を活用した家庭学習を行う。加えて、障害者の有無に関わらず誰もが楽しめる障害者スポーツ、「ボッチャ」を通じた交流活動を実施することで共生社会の意義を理解させる。更に、俳句や「加平小かるた」、「決まり字かるた」、「あだち環境かるた」の活用や席書会の実施等、伝統的な言語文化に関する指導を通して古典に親しみながら我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を育むなどの教育活動を展開する。学校・家庭・地域の連携・協働を高め、地域と共に育てる教育の推進と特色ある学校づくり、持続可能な学校運営組織の構築を進める。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

- 学校、家庭、地域にはそれぞれの役目があります。学校は、子供たちに学力や体力をはじめ、人格形成の基礎を身に付けさせていく役目があります。また、子供たちに基本的な生活習慣が身に付くようにして、学習効果を高めていくことも役目です。この基本的な生活・学習の習慣を身に付けることは学校だけでも家庭だけでもできません。互いが同等な関係で、それぞれの役割を果たすことが重要です。基本的な生活・学習の習慣の土台は、家庭であり、家庭の協力が不可欠です。「躰」「健康管理」「家庭学習習慣」「社会規範(きまり)を守る」などは家庭の役目です。そして、家庭・地域・学校にとって共通の役割は、子供たちに「忍耐強さ」「根気強さ」「自制心」(心の強さ)、「意欲」・「誠実さ」・「好奇心」(興味・やる気)、「社会性」・「協調性」(思いやり・協力)「人とかかわる力」などの力を育てていくことです。家庭で基盤をつくり、学校で知識や知恵を身につけ、地域で実践していくような連携がとれることを願っています。学校・家庭・地域が互いに同じ方向を向いて、子供に働きかけることが大切です。「子供たちのために」ともに力を合わせてまいりましょう。
- 保護者・地域の皆様の学校に寄せる熱い想いを強く感じています。学校は、子供あつての学校、地域あつての学校だと考えます。ですから、学校は、子供や保護者、地域の声に耳を傾け、その願いや思いを受け止めて教育活動を推進し、「笑顔輝く加平小学校」を実現していきたいと考えます。そのためにも、学校は、子供たちの学校での学習面・生活面の状況を保護者の皆様や地域の皆様に積極的に発信することで共有し、協働して子供たちに働きかける体制を確立していきたいと思えます。

(3) その他(学校教育活動全般について)

平成26年度に新校舎に移転してから8年が経過した。新校舎の恵まれた環境を生かした教育活動を進めてきている。来年度の新人児童数は100名3学級が見込まれている。全校児童は563名、学級数も18学級の予定である。特別支援教育については、特別支援教室を中心に学級との情報交換を密にし、個に応じた指導をさらに充実させ、児童一人一人のよさを引き出す指導を推進していく。またビオトープを生かした環境教育や道徳教育や特別活動の充実を図り、豊かな心の育成にさらに力を入れていく。何よりも日常の授業を大切にして、「人とかかわる力」「自分を知る力」「解決する力」等も育成していきたい。今後も児童数・教職員数ともに増加が見込まれる。これをチャンスと捉え、学校全体を活性化させ、チャレンジ精神をもって教育活動を充実させていくとともに、家庭・地域との連携を強め、ともに子供に働きかけていく体制を強化していくことが本校の使命である。